

1 学期終業式 式辞

先週行われたメモリアルマッチやコンサートで一生懸命に競技・演奏する姿を見せてもらい心うたれました。はじける笑顔・真剣な表情がコロナへの不安を遠ざけてくれることをあらためて気付かせてもらいました。ありがとう。

この1学期は、長期の休校、行事の中止や延期、悔しい思いをしたことも多かったと思います。夏にかかわらず、マスク着用というのも息苦しくて慣れません。しかし、大切な人の命を守るため、引き続き新しい生活様式を守ってください。

さて、人に感染症を引き起こす微生物には、コレラ菌・赤痢菌など細菌と呼ばれるものもあります。その細菌から人々を守るために努力し、世界的に知られた日本人と言えば？…千円札の肖像画になっている人と言えば？…そう野口英世です。

彼は、幼いころ大やけどで左手の指が全て手のひらにくっ付いてしまった。そのことで、からかわれ辛い体験をします。物心がついてから、誰にも見られないよう左手を隠して生活していた。障害で他の人と同じことができないことが辛く、みなさんと同じ年頃の15歳の時「一度でいいから、左手を動かしてみたい。」と訴えた。その作文が、多くの人の心を打ち、みんなが手術の費用を工面し、物が握れるほどに回復し、その時の経験から医者を目指すことになったそうです。

その野口英世は、こんな言葉を残しています。

「過去を変えることはできないし、変えようとも思わない。なぜなら人生で変えることができるのは、自分と未来だけだからだ。」

野口英世という人は、周りに迷惑もかける短所も多い人間味のある人であったと言われます。みなさんにも、全てがお手本のような人になることを求めているわけではありません。

しかし、野口英世のように障害を受けながら、それを克服し、世界の舞台で功績を残した人をみると、その原動力は、過去を嘆くのではなく、自分を変えることで道を開いていく前向きな行動をしているということがわかります。コロナウイルス感染症と共に生きなければならない時代にあっても、家族や（マスク越しにはなるけれど）友人と話して、笑って、いつものようにきちんと食べて眠って、前向きに生きる姿勢が大事です。

例年よりも短い夏休みとなりますが、3年生のみなさんは、自らの進路を考え目標を定め、より一層努力し始める時期になります。1・2年生は生徒会や部活動を3年生から引き継ぎます。学習においてもこれまで学んだところをまとめるよい機会としてください。

おわりに、生徒のみなさんが、明日からの夏休みに事故に合うことや病気にかかることなく、元気に2学期始業式を迎えてくれることを期待して1学期終業の話とします。